

【今日の説教から】

「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」。兄エサウのかかとをつかんで胎から出てきたヤコブらしい、神様への言葉です。

彼は人を押しつけ、兄エサウの長子の特権を自分のものとししました。そして彼は夢の中で天からはしごを見たときに、神様に「わたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう」との言葉を語りました。それから彼は母リベカの兄ラバンに会います。ラケルをめとりたいと思いつつも姉からめとりなさいと言われ、計14年叔父に仕えるヤコブ。そして姉と妹の子作り競争が始まり、代理戦争にも似て二人の女性が加わり、今度はやがてその子たち同士の確執が生まれます。

ヤコブのゆえに神様はラバンの家を祝され、そのことを知るラバンは彼を手放そうとはしません。そんな中、あなたの先祖の国へ帰りなさいとの神様の言葉により歩を進めますが、その行く手には兄エサウがいます。

父イサクのたどった道のり、母リベカ、そしてエサウとヤコブ、叔父とその娘たち、様々の出来事が重なり、成功や祝福や神様の言葉による導きを得て、ヤコブのエサウとの再会の恐れの中、神様は彼の前に現れ、彼の全存在を身体で受け止めて彼の格闘の相手になってくださいました。神の家、神の顔。神様はどれだけ私たちと共におられ、受け止めて祝してくださるのでしょうか。

皆様おはようございます。

ついに1週間寒さが緩むことなく、毎日断続的に雪が降り続けました。最高気温も氷点下のままというような日もあったのでしょうか。そんな中、皆さまお元気にお過ごしでしょうか。2月も中旬。寒さもここが底で、あとは徐々に温かさに向かうと信じて、体調に留意して進みましょう。

私たちは創世記を読み進めております。

偉大な父アブラハムのもとに育ったイサク。その彼については、父アブラハムからいけにえにされかかった出来事と、リベカとの結婚の話、そしてエサウとヤコブをめぐる長子の権利を受け継ぐときの話のほかには聖書にはあまり多く語られていません。これらのお話は、彼自身のお話というよりかは、彼の周囲の人たちの中での彼のお話とっていいかもしれません。

峻厳なる父アブラハムのもとで彼は少なからず気後れしていたのでしょうか。彼は母サラから可愛がられていました。彼は父親の、子を捧げるほどの信仰を、その測り知れない強い信仰を、どのようにして自分の信仰にしていたのでしょうか。

神様のお導きの中とはいえ、イサクの奥さん選びも、父アブラハムと、家の年長のしもべとの間で語られ、派遣され、カナンの地からではなく、自らの国、親族の間からめとるといふ事になり、祈りの中リベカが連れてこられます。

ただ、創世記24章にはこのように書かれています。

24:67 イサクはリベカを天幕に連れて行き、リベカをめとって妻とし、彼女を愛した。こうしてイサクは母の死後、慰めを得た。

母を失った悲しみが覆う中、彼は母に代わる存在を得て慰めを得ました。こういう聖書の書きぶりに、どこか繊細で線の細いイサク像が浮かんでくる思いがいたします。

24:14 娘に向かって『お願いします、あなたの水がめを傾けてわたしに飲ませてください』と言ひ、娘が答えて、『お飲みください。あなたのらくだにも飲ませましょう』と言ったなら、その者こそ、あなたがしもべイサクのために定められた者ということにしてください。わたしはこれによって、あなたがわたしの主人に恵みを施されることを知しましょう」。

24:15 彼がまだ言い終らないうちに、アブラハムの兄弟ナホルの妻ミルカの子ベトエルの娘リベカが、水がめを肩に載せて出てきた。

24:16 その娘は非常に美しく、男を知らぬ処女であった。彼女が泉に降りて、水がめを満たし、上がってきた時、

24:17 しもべは走り寄って、彼女に会って言った、「お願いします。あなたの水がめの水を少し飲ませてください」。

24:18 すると彼女は「わが主よ、お飲みください」と言って、急いで水がめを自分の手に取りおろして彼に飲ませた。

24:19 飲ませ終って、彼女は言った、「あなたのらくだもみな飲み終るまで、わたしは水をくみましょう」。

24:20 彼女は急いでかめの水を水ぶねにあけ、再び水をくみに井戸に走って行って、すべてのらくだのために水をくんだ。

そのイサクに嫁ぐことになったのは、祈りの中に導かれた理想の女性であるリベカでした。思いやりと強靱な体力に恵まれた優しくも力強い女性というイメージでしょうか。

24:22 らくだが飲み終ったとき、その人は重さ半シケル(約5.7g)の金の鼻輪一つと、重さ十シケル(約114g)の金の腕輪二つを取って、

24:23 言った、「あなたはだれの娘か、わたしに話してください。あなたの父の家にわたしどもの泊まる場所がありますか」。

24:24 彼女は彼に言った、「わたしはナホルの妻ミルカの子ベトエルの娘です」。

24:25 また彼に言った、「わたしどもには、わらも、飼葉もたくさんあります。また泊まる場所もあります」。

24:26 その人は頭を下げ、主を拝して、

24:27 言った、「主人アブラハムの神、主はほむべきかな。主はわたしの主人にいつくしみと、まこととを惜しまれなかった。そして主は旅にあるわたしを主人の兄弟の家に導かれた」。

24:28 娘は走って行って、母の家のもものにこれらの事を告げた。

24:29 リベカにひとりの兄があつて、名をラバンと叫んだ。ラバンは泉のそばにいるその人の所へ走って行った。

24:30 彼は鼻輪と妹の手にある腕輪とを見、また妹リベカが「その人はわたしにこう言った」というのを聞いて、その人の所へ行ってみると、その人は泉のほとりで、らくだのそばに立っていた。

24:31 そこでその人に言った、「主に祝福された人よ、おはいりください。なぜ外に立っておられますか。わたしは家を準備し、らくだのためにも場所を準備しておきました」。

百グラムを超える金の腕輪を2個。それをじっと見るラバンの姿が記されてあります。この後の、身内とはいえ欲に駆られて関係がこじれていく端緒を見る思いがいたします。

25:20 イサクは四十歳の時、パダンアラムのアラムびとベトエルの娘で、アラムびとラバンの妹リベカを妻にめとった。

25:21 イサクは妻が子を産まなかつたので、妻のために主に祈り願った。主はその願いを聞かれ、妻リベカはみごもった。

25:22 ところがその子らが胎内で押し合つたので、リベカは言った、「こんなことでは、わたしはどうなるでしょう」。彼女は行って主に尋ねた。

25:23 主は彼女に言われた、／「二つの国民があなたの胎内にあり、／二つの民があなたの腹から別れて出る。一つの民は他の民よりも強く、／兄は弟に仕えるであろう」。

25:24 彼女の出産の日がきたとき、胎内にはふたごがあつた。

25:25 さきに出たのは赤くて全身毛ごろものようであつた。それで名をエサウと名づけた。

25:26 その後に弟が出た。その手はエサウのかかとをつかんでいた。それで名をヤコブと名づけた。リベカが彼らを産んだ時、イサクは六十歳であつた。

25:27 さてその子らは成長し、エサウは巧みな狩獵者となり、野の人となつたが、ヤコブは穏やかな人で、天幕に住んでいた。

25:28 イサクは、しかの肉が好きだったので、エサウを愛したが、リベカはヤコブを愛した。

このイサクとリベカのもとに生まれたエサウとヤコブ。ヤコブ(その名前の意味は「かかとをつかむ者」)は、兄のかかとをつかんで出てくるという他を押しつけるような性格。おっとりとしたイサクは、エサウに目を注ぎ、リベカはヤコブを愛したようです。それぞれに性格的に呼応するものを愛するという事なのではないでしょうか。しかしエサウは自由奔放で、父も母も大切にしてきた結婚における民族の純潔性を守ることをせず、両親の心の痛みとなりました。

26:34 エサウは四十歳の時、ヘテびとベエリの娘ユデテとヘテびとエロンの娘バスマテとを妻にめとった。

26:35 彼女たちはイサクとリベカにとって心の痛みとなった。

26:7 その所の人々が彼の妻のことを尋ねたとき、「彼女はわたしの妹です」と彼は言った。リベカは美しかったので、その所の人々がリベカのゆえに自分を殺すかもしれないと思って、「わたしの妻です」と言うのを恐れたからである。

またもイサクもまた、アブラハムが犯したと同じ間違いを犯すというところ、歴史は繰り返すと言いますか、親子そっくりと言いますか。

そんな中、母リベカも入れ知恵をして、大変な世継ぎ騒動が起こります。純潔を守らない奔放なエサウへの心配も確かにあるとは思いますが。しかしこのことは大騒ぎになりました。殺意を抱くエサウに逃げるヤコブ。一家が大変なことになってしまいます。

28:1 イサクはヤコブを呼んで、これを祝福し、命じて言った、「あなたはカナンの娘を妻にめとってはならない。

28:2 立ってパダンアラムへ行き、あなたの母の父ベトエルの家に行って、そこであなたの母の兄ラバンの娘を妻にめとりなさい。

28:3 全能の神が、あなたを祝福し、多くの子を得させ、かつふえさせて、多くの国民とし、

28:4 またアブラハムの祝福をあなたと子孫とに与えて、神がアブラハムに授けられたあなたの寄留の地を継がせてくださるように」。

28:5 こうしてイサクはヤコブを送り出した。ヤコブはパダンアラムに向かい、アラムびとベトエルの子で、ヤコブとエサウとの母リベカの兄ラバンのもとへ行った。

その旅路。荒涼とした砂漠での意思を枕にして眠るヤコブ。そこに天からのほしごを夢に見て、彼は神様の守りを祈って言いました。

28:17 そして彼は恐れて言った、「これはなんという恐るべき所だろう。これは神の家である。これは天の門だ」。

28:18 ヤコブは朝はやく起きて、まくらとしていた石を取り、それを立てて柱とし、その頂に油を注いで、

28:19 その所の名をベテルと名づけた。その町の名は初めはルズといった。

28:20 ヤコブは誓いを立てて言った、「神がわたしと共にいまし、わたしの行くこの道でわたしを守り、食べるパンと着る着物を賜い、

28:21 安らかに父の家に帰らせてくださるなら、主をわたしの神といたしましょう。

28:22 またわたしが柱に立てたこの石を神の家といたしましょう。そしてあなたがくださるすべての物の十分の一を、わたしは必ずあなたにささげます」
どこか引っ掛かります。これこれをしてくださるのならあなたを私の神と認めてこれこれを捧げましょうというのは、上下が逆なのではないでしょうか。

彼は叔父ラバンのもとに無事に到着し、そしてそこから妻をめとるヤコブ。しかし意中のラケルを得られると思い7年働くも姉のレアを与えられ、さらに7年妻を得るために働くヤコブ。そして姉妹の嫉妬に燃えた子供の数を争う競争が始まります。これは双方がそれぞれの女性を連れてきての争いにまで発展します。そうして子供が増えていき、やがての兄弟間の確執の土壌が出来上がります。

叔父ラバンの家は、神様に愛されたヤコブのゆえに栄えます。それを知ってラバンはヤコブを手放したくないのですが、ヤコブとしてはいつまでも叔父のもとで、叔父のために働くのではなくて独立したいと思うようになります。一計を案じて自分の富を増やし、叔父のもとを半ば逃げるようにして去るヤコブと家族の一行。そこにラケルが持ち出した偶像。いろいろと様々な問題や人間関係の確執が浮かびます。

そしてついに彼が自分の故郷へ帰る時がやってきました。しかし彼には大きな問題がありました。それは彼に殺意を燃やして立ちふさがっているエサウの存在です。

32:9 ヤコブはまた言った、「父アブラハムの神、父イサクの神よ、かつてわたしに『おまえの国へ帰り、おまえの親族に行け。わたしはおまえを恵もう』と言われた主よ、

32:10 あなたがしもべに施されたすべての恵みとまことをわたしは受けるに足りない者です。わたしは、つえのほか何も持たないでこのヨルダンを渡りましたが、今は二つの組にもなりました。

32:11 どうぞ、兄エサウの手からわたしをお救いください。わたしは彼がきて、わたしを

撃ち、母や子供たちにまで及ぶのを恐れます。

32:12 あなたは、かつて、『わたしは必ずおまえを恵み、おまえの子孫を海の砂の数えがたいほど多くしよう』と言われました」。

かつては杖一歩しか持たずに荒れ野に逃れたヤコブ。その彼を神様は守り導き、夢の中に彼を慰め今日まで導かれました。そのような生涯の導きを得てもなお彼の心には恐れがありました。御言葉の通りに歩んできました。数々の苦境から導き出していただきました。しかし次々と新しい悩みが襲いかかり、今、ついに積年の問題の核心に対峙しようとしているのです。そして彼は自分たちが皆殺しにされるのではないかと恐れるのです。彼は神様のお約束の言葉を思い出し、それにすがり、祈りました。

そして先に先に、お詫びの品を行かせ、宥めが十分に澄んだところで自分たちが対面するようにと計画しました。

32:17 また先頭の者に命じて言った、「もし、兄エサウがあなたに会って『だれのしもべで、どこへ行くのか。あなたの前にあるこれらのものはだれの物か』と尋ねたら、

32:18 『あなたのしもべヤコブの物で、わが主エサウにおくる贈り物です。彼もわたしたちのうしろにおります』と言いなさい」。

32:19 彼は第二の者にも、第三の者にも、また群れ群れについて行くすべての者にも命じて言った、「あなたがたがエサウに会うときは、同じように彼に告げて、

32:20 『あなたのしもべヤコブもわれわれのうしろにおります』と言いなさい」。ヤコブは、「わたしがさきを送る贈り物をもってまず彼をなだめ、それから、彼の顔を見よう。そうすれば、彼はわたしを迎えてくれるであろう」と思ったからである。

32:21 こうして贈り物は彼に先立って渡り、彼はその夜、宿営にやどった。

32:22 彼はその夜起きて、ふたりの妻とふたりのつかえめと十一人の子どもとを連れてヤボクの渡しをわたった。

32:23 すなわち彼らを導いて川を渡らせ、また彼の持ち物を渡らせた。

32:24 ヤコブはひとりあとに残ったが、ひとりの人が、夜明けまで彼と組打ちした。

アブラハムの弱さと強さ、サラの弱さと強さ、イサクの弱さと強さ、リベカの弱さと強さ、ラバンの弱さと強さ、エサウとヤコブの弱さと強さ。もろもろの弱さと難しさ、人と人とのぶつかり合い、せめぎ合い。こうした一切合切の者が折り重なって、そして自分の自業自得というべき失敗の中で、しかし神様の祝福と守りを得ながらも、彼は祈り進みましたが、いよいよと伸るか反るかの決定的な局面へと彼は差し掛かりました。そして列はエサウへと

時々刻々と近づいていきます。そんな危急の恐怖、間断なく彼に近づいてくる恐怖の中、神様は彼に現れてくださいました。

その不安な夜、今度という今度は逃げることもかなわず悶々とする彼に、夜明けまで彼と組打ちし、格闘してくださったのです。

神様は私たちのどうしようもない状況の中、私たちとがっぷり四つに組み合ってください、胸を貸してください、私たちの悩みの叫びも、言葉にならない叫びも思いも、その身に受け止めて押し合いへし合いに付き合ってください、私たちの情念を受け止めてくださるお方です。

彼の弱さ、打算的なところ、人を押しのけるところ、神様に条件を付けて注文するところ、まだまだ苦労方なくて、まだまだ鍛錬されなければならないところ、だまされて起こり、恨む心、やり返してしてやったりと喜びいさかいを作る心、もろもろの至らなさ、もろもろの努力、もろもろの彼の持ち味の良さ、一切合切を神様は体ごといつも受け止めていてくださり、そして思いを受け止め、出過ぎたところを訂正し、やすりが決して整え、良き所を引き立たせて、神様は体ごと私たちにぶつけて、真剣に私たちと向き合い、格闘し、私たちを導いてくださるお父上様なのです。

32:25 ところでその人はヤコブに勝てないのを見て、ヤコブのもものつがいにさわったので、ヤコブのもものつがいが、その人と組打ちするあいだにはずれた。

32:26 その人は言った、「夜が明けるからわたしを去らせてください」。ヤコブは答えた、「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」。

32:27 その人は彼に言った、「あなたの名はなんと言いますか」。彼は答えた、「ヤコブです」。

32:28 その人は言った、「あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との、力を争って勝ったからです」

32:29 ヤコブは尋ねて言った、「どうかわたしにあなたの名を知らせてください」。するとその人は、「なぜあなたはわたしの名をきくのですか」と言ったが、その所で彼を祝福した。

32:30 そこでヤコブはその所の名をペニエルと名づけて言った、「わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている」。

32:31 こうして彼がペニエルを過ぎる時、日は彼の上のにぼったが、彼はそのもものゆえに歩くのが不自由になっていた。

32:32 そのため、イスラエルの子らは今日まで、もものつがいの上にある腰の筋を食べない。かの人がヤコブのもものつがい、すなわち腰の筋にさわったからである。

私たちが力で神様に勝つわけがないのです。しかし神様は彼の神様に向かう心、自分ではど

うにもならない自分の人生を、神様にぶつけて祝福をくださいという彼の心を信仰と認めて祝福を授けてくださるのです。

イスラエル。それは彼が神様に勝ったという名前ではなくて、「神様は打ち勝つ」という意味です。救いは、勝利は神様にあります。私たちの政治的な思惑でも、私たちの願望でもありません。

彼は祝福を頂き、ついに恵み深い神様の前に心砕かれました。そして彼の自負は彼自身ではなくて、ただお一人勝利される方、すなわち神様と、心から告白できるようにと導かれたのです。

イスラエル、神様は打ち勝つ。そういうお方と共に私たちは今週も、ご一緒に進むのです。私たちは心砕かれ、神様の御心の只中に隠していただきたいと願うのです。私たちがイスラエル、私たちが全能だと他を押しつけるのではなくて、神様が私たちを受け止め、贖い、救い出して勝利してくださるので私たちはこの神様の後についていきたいと切に願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。「どうか、兄エサウの手から救ってください。わたしは兄が恐ろしいのです」とのヤコブの祈りに、

鬼気迫る思いがいたします。恐れ、不安、恐怖。時にそれは自業自得のこともあります。しかし存在の根底から覆されるような危急の苦しみや恐怖の時、神様がヤコブにお現われになり、彼とがっしりと体と体を合わせて胸を貸してくださり、受け止め、叫びも疑問も受け止めて自我を砕き導いてくださいますから、本当にありがとうございます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン